

日中友好新聞

No. 1041  
2025/3/1

日中友好新聞

発行所  
日本中国友好協会  
〒111-0953  
東京都台東区浅草橋2-2-3  
約利ビル5F  
電話 03(5839)2149(TEL)  
FAX 03(5839)2141  
http://www.jcf-net.jp  
E-mail: jcf@jcf-net.jp  
社印 00119-1-21176

日中友好協会  
岡山支部  
〒708-0034  
岡山市北区下伊福  
西町1-59 民生会館1F  
TEL: FAX 0861 258-8808

日中友好協会  
倉敷支部  
〒713-8031  
倉敷市福河町東22461-45  
TEL: FAX 0861 411-7800

# 春節餃子パーティー

岡山支部 真田紀子

2月16日の日曜日、岡山東公民館の料理教室に22人の人が集まり、初めての春節餃子パーティーを行いました。

帰国者の方がたは手作り餃子を30個持参で無料、その他の参加者は1000円、70歳以上は500円という設定で、呼びかけました。

餃子は5家族の方々が作って来てくださったので、それぞれ味が違って美味しいと食べ比べたり、形を白菜に



にせてヒダのところは薄い緑になっていくものがあったり、見ているだけでも楽しいものでした。

理事のお母さんが、岡山祭り寿司を作ってきてくださり、その場ではたこ焼きも作りました。中に入れる具はタコ以外にも、チーズやベーコンなどで工夫しました。唐揚げとサラダもあり、お腹いっぱいになりました。



二胡を演奏する高杉さん

自己紹介の後、高杉さんの二胡の演奏、小川さんの太極拳表演、そして極め付きは中国東北地域の踊りを音楽と太鼓に合わせて、芝原さんの指導を受けて皆で踊りました。



いほりの皆さんが扇を持ってきてくださったので、拍子を取りながら踊りました。



小川さんが太極拳の扇を表演



餃子をゆでる高杉芳恵さんと大森美幸さん

アツという内に2時間が過ぎ、残ったお寿司や餃子は、パックに入れて持ち帰ってもらいました。来年もまたやりましょうと声掛けをしました。

日中友好協会岡山支部ホームページ  
<http://rizhongyouhao.jinaa.net/>  
 メールアドレス  
 nicchukayama@yahoo.co.jp



# 岡山15年戦争資料センター2月研究会に行ってきました。

真田

2025年2月22日の土曜日に、岡西公民館で標記の会が開催されました。

当日、私が「イスラーム圏で働く」岩波新書、桜井啓子編の本をレクチャーすることになっていましたので、昨年からの準備を進めていました。

当日参加者は、8人でした。その中に日中友好協会岡山支部の元事務局長の桑山哲郎さんがいらっしやつたのには驚きました。

この本を選んだ理由は、昨年9月ごろに竹内和夫先生のマンシオンを片付けた時にこの本と「イスラーム事典」(平凡社)を見つけて、ただだいて帰ったことです。事典は1982年発行とかなり古いですが、岩波新書のほうは2015年と新しく、見開きに97と竹内のハンコが押してありました。竹内先生が読まれたかもしれないと思い、私もじっくり読むことにしました。

この本は一般学生にイスラーム圏を身近に感じてもらいたいということから、早稲田大学の学生を対象として「イスラーム地域研究」の一環として、「働く日本人のイスラーム」という講演会を毎月ほぼ一回のペースで開催し、その中から13名の方々

の講演やインタビューの記録をまとめたもののようです。

ここでは、1篇のみ紹介します。

元エミレーツ航空キャビンクルーの女性の話です。

”機内では、ほぼ一分に一回、「イン・シャー・アッラー」が飛び交います。クルー同士でも、クルーとお客様の間でも「イン・シャー・アッラー」を使います。私も時々使います。「イン・シャー・アッラー」は、「神様がそう望めば」という意味です。本来はネガティブな意味はないはずですが、機内や社内での一般的な使い方、たとえば、自分の仕事で手一杯な時に、同僚から「あれをやっておいて」と振られたとします。断る時には、「ノー」ですが、自分の仕事が済めば、やってもいいけれども、今はできないといった場合には、「イン・シャー・アッラー」と返します。とりあえず流すときに「イン・シャー・アッラー」と言っているわけですね。

あるいは、親しくしてくれるお客様から、「連絡をください」といって名刺を渡された場合

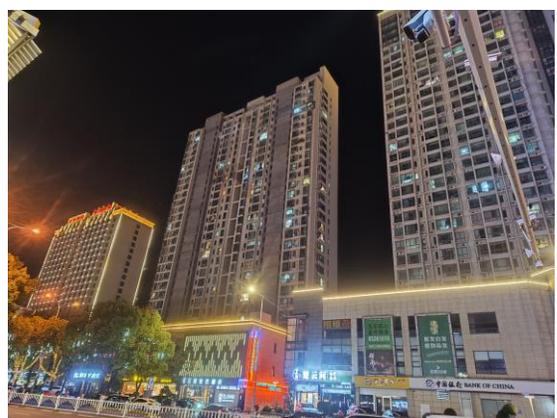
は、「イン・シャー・アッラー」と返事をします。お客様から誘われて、「ノー」と言えば、お客様に失礼なので、「神の思召しがあれば、あなたの食事のお誘いを受けますよ」と言って、相手を傷つけずにやんわりと断る。お互いを立てる方法です。日本語に直すと「機会があれば」という感じでしょうか。”

なかなかいい言葉ですね、皆さんも使ってみてはどうでしょうか。

## 常州への旅 ⑤

中国人が高铁に乗るのには、身分証明書を見せなければならぬようです。私たちが入り口が違っていました。荷物検査は同じです。

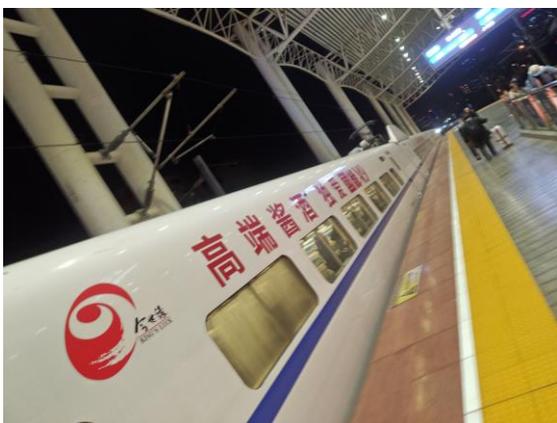
飛行場のようなかなか広い待合スペースがあり、それぞれの乗り場に行くためには、改札を通らなくてはなりません。高铁到着10分前ぐらいから、改札があきます。ホームに降りなくてはなりません。ホームでも飛行機と同じで、またパスポートをかざさなくてはなりません。チケットではなくて、パスポートです。私たちの乗る高铁の発車時刻も座席番号もすべてスマホに、劉老師から送られてきたデータを確認します。ホームに降りて乗車する号車番号に向かいますが、日本と違い、表示が見当たりません。足元にあるかなり小さな番号が号車番号のようです。最初はわかり



にくいです。

やつと南京行の高铁が入ってきて、乗り込みます。日本の新幹線とほぼ同じ作りですが、座席の前のスペースがやや狭いです。スーツケースを置く足場のやり場に困ります。

上海虹橋駅から昆山南、蘇州、無錫、常州と止まります。



(これは今ネットで調べました。)当時はかなり疲れていて、駅名までは覚えていません。

常州駅は上海と違い、人がそれほど多くありません。タクシー乗り場に向かいます。今度は無事にタクシー乗り場に到着しました。そこから3人と荷物を積めるタクシーが無いことに途方にくれますが、仕方ありません。私が一人で乗る車と、小川さんと田中さんが乗る車に分かれて出発します。

私のスーツケースがかなり大きくて、人目を惹きまします。帰りの上海虹橋駅でも大きな声で呼び止められて、3人が乗れる車に案内されました。

常州でのホテルは艺龙安云酒店です。無事到着、タクシー料金は60元だったような気がします。

真田紀子

次回の新聞送付作業は3月13日(木)午前10時半から

民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方

井田 河真